



TITLE:

京都大学図書館改善特別委員会発  
足す

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学図書館改善特別委員会発足. 静脩 1965, 1(3): 2-2

ISSUE DATE:

1965-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36230>

RIGHT:

## 京都大学図書館改善特別委員会発足す

本誌第2号で報ぜられたように、大学図書館の近代化運動は、各方面の強力なバックアップを受けつつある。しかし、大学図書館の近代化に対する要望が、外部からもこのように強く起ってきていることは、それだけ大学図書館の立遅れをいかに克服するかというこの問題の深刻さを、裏書きするものといえよう。

本学の場合、1963年度における全学の受入図書総冊数は7万冊に達し、その金額も、寄贈図書の評価額を含めると、2億円に近い。また大学の発展にともなう教官・学生数の増加も著しいが、全学の図書館組織全体は、それに見合うだけの十分な発展を示していない。本学の場合においても、図書館近代化の問題はきわめて深刻である。したがってこの際、本学図書館組織全体の機能、運営等を再検討し、京都大学図書館の今後進むべき太いレールをしく必要性が痛感されてきた。

この仕事をするために、附属図書館商議会の承認をへて、商議会の特別委員会として、京都大学図書館改善特別委員会を設けることになった。委員会に各学部、教養部、および附置研究所から教授または助教授1名づつを委員として出していただき、図書館の利用者の立場で、大学図書館近代化の問題を審議していくことを目的としている。当初の予定では、月1回開催し、1年間くらいでなんらかの結論を出すことが期待されている。

第1回委員会は、昨年末12月11日（金）午後3時から開かれ、この特別委員会の委員長として堀江附属図書館長が選ばれた。副委員長については、審議の過程で具体的に人選することになった。

委員会には、図書館側から各種資料や改善計画の主眼点などが提出されていたが、第1回委員会では、それらにとらわれず、自由に発言していただいたが、附属図書館の概念について種々の意見が出された。

第2回委員会は本年1月12日（火）に開催されたが、図書館サービスの問題のうち、とくに図書整理業務上の本館と部局図書室の関係の問題に論議が集中し、分散整理方式か集中整理方式かについて、意見が交換された。

なお第3回委員会は2月9日（火）午後3時から開催の予定である。

特別委員会のメンバーは次の通りである。

|     |                |     |                          |
|-----|----------------|-----|--------------------------|
| 委員長 | 堀江 保蔵（附属図書館長）  | 委 員 | 高松 英雄（結核研究所教授）           |
| 委 員 | 前川貞次郎（文学部教授）   | 〃   | 平岡 武夫（人文科学研究所教授）         |
| 〃   | 小倉 親雄（教育学部助教授） | 〃   | 鈎 三郎（工学研究所教授）            |
| 〃   | 林 良平（法学部教授）    | 〃   | 岩井 和夫（食糧科学研究所教授）         |
| 〃   | 出口 勇蔵（経済学部教授）  | 〃   | 角谷 和男（木材研究所教授）           |
| 〃   | 市川 衛（理学部教授）    | 〃   | 吉川 宗治（防災研究所教授）           |
| 〃   | 脇坂 行一（医学部教授）   | 〃   | 杉野 幸夫（ウイルス研究所教授）         |
| 〃   | 宇野 豊三（薬学部教授）   | 〃   | 行沢 健三（経済研究所教授）           |
| 〃   | 宍戸 圭一（工学部教授）   | 〃   | 福原満洲雄（数理解析研究所教授）         |
| 〃   | 岸根 卓郎（農学部教授）   | 幹 事 | 岩猿 敏生（整理課長兼事務部長<br>事務取扱） |
| 〃   | 渡辺 明正（教養部教授）   |     |                          |
| 〃   | 清水 栄（化学研究所教授）  | 〃   | 有本利三郎（閲覧課長）              |